

東京薬科大学 第4回全学FDワークショップ アンケート結果

講演日時：2014年8月21日（木） 13:00～15:30

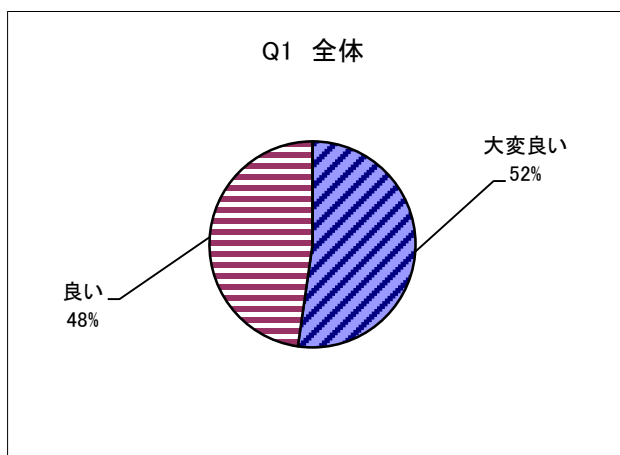
講演場所：東京薬科大学 教育5号館 5301講義室

講師：大阪府立大学工業高等専門学校 北野健一

アンケート回収：44通

Q. 1 今回の講演会は全体としていかがでしたか。

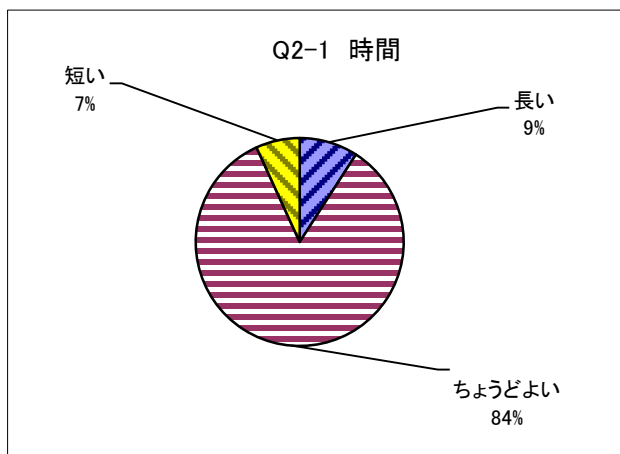
- ①大変良かった 23名(52%) ②良かった 21名(48%)
③良くなかった 0名(0%) ④全く良くなかった 0名(0%)



Q. 2 今回の講演ではティーチング・ポートフォリオを理解していただくことが第一の目的でした。この目的を達成するために、

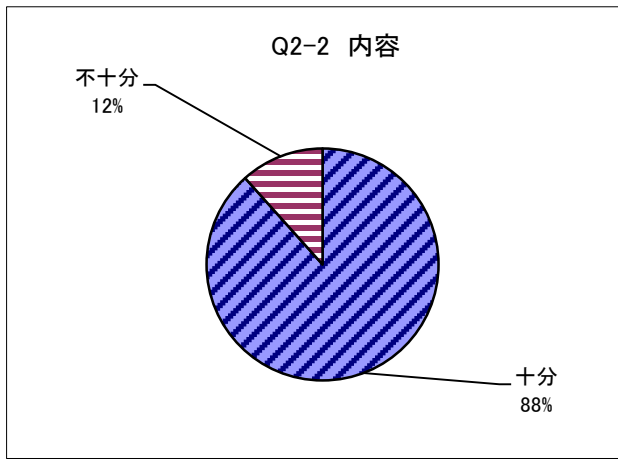
2-1 講演時間はいかがでしたか。

- ①長い 4名(9%) ②ちょうどよい 37名(84%) ③短い 3名(7%)



2-2 講演内容についてはいかがでしたか。

- ①十分であった 38名(88%) ②不十分であった 5名(12%)

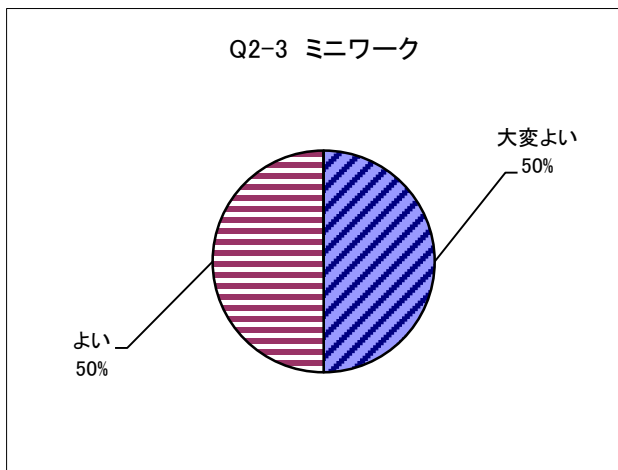


* 不十分であったと感じられた部分についてお聞かせ下さい。

導入としては十分だった
奥はもっと深いと思ったので。今回のWS内では十分だと思いました
ティーチング・ポートフォリオとアカデミック・ポートフォリオの違い、両方の必要性がよく判らなかった
メンターについてもっと説明してほしい
TP 作成の具体的な様子や How to をもっと知りたい
TP の実例を多く見てみたかった
TP のアウトプットへのイメージがつかめれば、もっとよかった

2-3 ミニ TP ワークはいかがでしたか

①大変よかった	22名(50%)	②よかった	22名(50%)
③よくなかった	0名(0%)	④全くよくなかった	0名(0%)



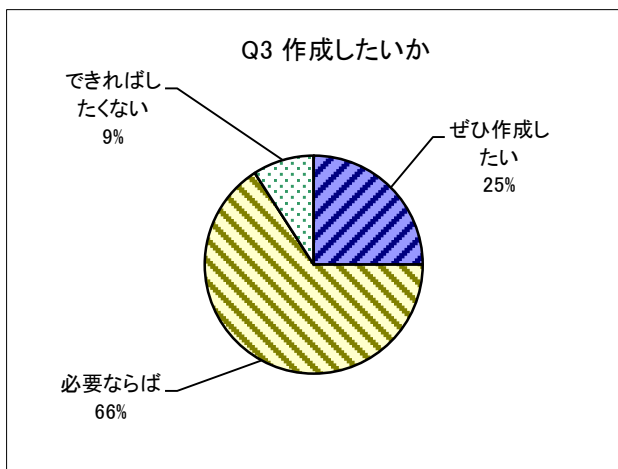
* 上記のように答えた理由についてお聞かせ下さい。

①	私がポートフォリオに対して考えていたことが概ね正しかったと知ったこと
①	日頃考えていたことが整理できた
②	振り返りができた
②	自分自身をふりかえることができ、目標を確認できたので
②	パートナーとの違いがよく分かった
①	具体的に理解できた
②	自分について考える機会は新鮮でよかった

②	表面的とはいえ、自分を見直すことができたから
①	他の先生に仕事について知ることができて興味深かった
①	自分でも気づかなかった理想の教員像を考える事ができた
①	自分の現状を把握できた
②	時間がもう少し長い方がよい
②	自分の取りくみを整理して考えるよい機会となりました
②	自分の教育に対する姿勢が明確になった。他の先生の教育に対する考えを知ることができた。
②	日ごろ意識していなかった自身の理念に近づくことができた
②	もっと時間をかけたかった
②	時間制限の中では十分だったと思う
①	もう少し時間が必要
②	今秋から始まる講義・実習の改善点が明確になった。時間がなかったので、“理念”について考えたり、将来ありたいとする姿を考えられなかった
①	TPの作成手順の一部(ほんの少し)ではあったが、イメージするのに役立った
②	日ごろ特に自覚せず行っている活動をいろいろ分析できたので
①	特に異なる学部の教員間でペアを組んだので、普段自分とは異なる業務を担当している方のTPは興味深く拝見できた。
②	自分の考えてきたこと、ほぼ無意識に行って来たことを振りかえることができた。

Q. 3 ティーチング・ポートフォリオを作成したいと思いましたが、

- | | |
|---------------|----------|
| ①ぜひ作成してみたい | 11名(25%) |
| ②必要ならば作成してもよい | 29名(66%) |
| ③できれば作成したくない | 4名(9%) |



Q. 4 ティーチング・ポートフォリオについてどのような印象を持たれましたか。

その可能性、限界、課題についてなど、ご自由にお書き下さい。

大学の段階まで学府レベルが上がると、教育にかかわる方も、受ける方も、行うべき”作業”が多くなる。もっと低年齢(小学生、中学生)の教育機関を対象にしたポートフォリオプログラムをつくり、実行すれば、少ない労力でシステムをつくることができるだけでなく、早くからポートフォリオに慣れていけば(うまいければ)頭の中にポートフォリオを描いていけるように(大学の頃には)なっていけるのではないですか？私は割合頭の中でできるので、このような”形”をもったものは、かえってストレスです。
たいへん有用に思いましたが、たいへんたいへんそうで、思い切るところまで行きません。
ちゃんと作成するのはしんどそう
難しさを感じたが、意味あるものだと感じた
非常に面白かったです。一般にFDというと、方法についての議論に終始してしまっている感じがしますの

で、理念や哲学的なものが共有できる場があれば良いのになと思っていました。先生、先生と呼ばれる立場の人(自分も含め)が、自分の方法(教育や指導)を変える(改善する)のは容易ではないと思いますので、5日間(3日間)の時間がとられるのはしょうがないのではないかと思います。若い教員は教育に興味を持たない方がよい(研究をやれ!)などと言われたことが何回かありますが、是非受けてみたいと思いました。大学院生バージョンは学生にすすめてみたいと思っています。
必要性がいまいち感じられない
普段意識していなかったことを理解できるのはいいことかもしれません
短い時間でしたので理解が充分ではありません。もっと長くお話を伺いたかったです。このような省察を本学でも活かしてみようと思います。
非常に有用な資料となりうることが理解できました
更新の機会が良いタイミングで持てれば、内省に活用できると思います
全ての人が行うのは難しいけれど、必要な物だと感じました
PDCAに使用する方法がわからなかった。教員の評価に使用するものが別に必要? 課題は教員の教育の質の向上にどうやって使えるかの所がよくわからなかった
自分が作成したTPが学生、社会からのニーズに合っていない場合はどうなるのかな? とは思いました
北野先生のポートフォリオを拝見した感銘を受けました
・TPの省察のメリット、その実例を知りたいと思った。・「WS」内の自己十分にならないだろうか。・理念の変化と教員力の関係を知りたい。
自己分析に最適と思いました
見直しの頻度や更新のポイントなども伺えたら嬉しいです
自分をまとめてみるとか、自分の teaching について深く考え、改善につながると思いました
どことなく無理やり考えをまとめさせられている感じがあるが、作成してみないと可能性までは分からない
ティーチング・ポートフォリオの評価(or 作成前後の自分自身の評価法はあるのか?) 現状、もうひと押ししないと、時間がかかりすぎると感じてしまった
有意義なものであるという印象ですが、少し大変そうであるとも感じました
省察にはとてもよいと思うが、昇進、転職時の判断材料には日本ではならないと思う
すばらしいツールであると思いました
教員としてのモチベーションアップに効果がありそうだと思います。ただし、自分にあまりカッコイイ理念がないので、はずかしい面もあります。
自身の考えを整理できるのは、教育にとって重要であると認識できた
「走りながら考えていたら、いつのまにか考えることをやめていた」そんな現状でしたので、今少し立ち止まり改めて理念等考えてみようと思いました。ありがとうございました。
自身の教育を振り返るために作成すべきものであると感じました。現状を自己評価するためには良いのかもしれないけれど、改善すべきこと、今後の課題でどこまで拾いあげられるのか、イメージがつかめませんでした
読み手の存在、使用目的による
大学教員は作成すべきと思う
日常業務の中で2泊3日の時間をどうやりくりするか、が一番の課題かと思いました。
自分自身を振り返るのに役立つと思う。評価に使用すると、振り返る資料として意味を持たなくなってしまうのが残念だ。
理念と技法の両者が必要だと感じました。
作るにより、いくつか目標がつけれると思ったが、重点をどれに置くかについては、むずかしいかもしれないと思いました。おもしろい方法だと思いました。
自分が行っている業務を客観的に見なおすことができる。必要な修正を行うきっかけとなる。
教員の資質向上に役立つとは思いますが、実際に採用の際、使用するのにはまだ疑問点が残る。客観的エビデンスがあっても、採用側に判断の幅をもたせることになり、客観性、公平性をどのように確保するかとの問題があると思われた。

以上